

ひろしま未来チャレンジビジョン改定素案

～第7回小委員会(6/16)委員意見～

領域	委員意見
全体	<p>(複数領域に関係するテーマについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶例えば、都市と自然の近接性を生かしたブランド化については、「人の集まり定着」、「魅力ある地域環境」、「観光」などの領域にまたがって記述されているため、全体像が分かりにくい。各領域で進める取組の役割を整理して、県として全体で何を指すかを示す必要があるのではないかと考える。 ▶都市と自然の近接性はキーワードであり、地域づくりの基礎条件であると思う。これを何と組み合わせるかが大事であり、仕事や生活と組み合わせれば打ち出すことができればよいと思う。 ▶主として取り組む取組方向を白抜き△(三角)で表記するなどして、整理する方法もある。 ▶例えば「ブランド化」に取り組む領域と、そこで「ブランド化」されたものを活用して取組を進める領域が、言葉として読み取れるように記述すれば良いのではないかと考える。 ▶豊かな地域づくりの指標が、全体的に人づくりに比べてバラつきが大きいので、工夫していただきたい。
少子化対策	<ul style="list-style-type: none"> ▶若い方が結婚しない理由や2人目、3人目を生まない理由に経済的な負担があるが、経済的負担の軽減対策が必要ではないかと考える。 ▶早い時期に結婚することが出産につながることから、10年後の成人式・同窓会といったことを通じて、結婚への意識を高める取組を検討しても良いのではないかと考える。 ▶サタケでは、優遇措置を設けるなどして社内結婚を推奨し、また、配偶者手当を減らして育児手当を充実するなどしているが、このような思い切った取組が結婚支援に必要だと感じている。
女性の活躍促進	<ul style="list-style-type: none"> ▶女性の就労継続には、雇用者側の意識改革が必要であり、企業に対する働きかけが重要だと考える。 ▶国家資格や、管理職などのキャリアを持っている方は、産後に復帰しやすいが、一般事務職の方は復帰が難しい環境にあると思う。働き方改革における勤務時間短縮や在宅勤務制度の促進といったアプローチが、出産による離職対策にもつながってくると考える。 ▶大学内では、女性職員の育児休業取得を推奨するよう、管理職に働きかけており、育児休業後、経験した仕事をベースとした職場復帰につながっている。最初は抵抗感があるかもしれないが、企業に対する働きかけは必要である。 ▶男性中心の社会に女性の参画を促す程度しか記載がない。男性より優れている部分を生かすことまで踏み込んでいかなければ、他地域から広島県に招くことには至らない。 ▶女性管理職の登用率を上げるためには、クォータ制の導入、管理職候補者へのメンターや相談等を徹底的に行うとともに、職場における固定的性別役割分担意識の改革を進めることが重要であり、素案の内容では弱いと考える。 ▶女性から選ばれる地域となるためには、働きやすさに加え、質の高い保育、グローバル化に向けてのインターナショナルスクール等の教育環境の充実が重要である。 ▶指標の「女性管理職登用率」は、「女性管理職を登用している県内事業所の割合」ではないかと考える。

領域	委員意見
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ▶子育ての負担が女性にかかり過ぎていることが、2人目・3人目の出産を思いとどまる理由の一つとなっているため、男性の育児への参加や育児休業取得率は、「働き方改革」でなく、「少子化対策」に位置付ける方が、納まりが良いと感じる。 ▶男性の育児休業取得率を目標値に掲げるのであれば、3割にするくらいの、インパクトのある設定が必要だと思う。 ▶働き方改革は女性だけでなく、男女の働き方を変えていく必要があり、これを表す指標を検討してはどうか。 ▶働く時間を減らすだけでなく、時間当たりの生産性を高める観点について盛り込む必要があるのではないか。 ▶目標の「仕事と生活の調和」ではぼやけるので表現を変えた方が良い。 ▶ワークとライフを別々に捉えるのではなく、ワークとライフのシナジー（相乗効果）の発現に向けて取り組み、ワークスタイルのイノベーションを起こすくらいのことを打ち出してほしい。 ▶少子化対策、女性の活躍、働き方改革をどう区分していくか、項目別に整理すると相互の関係が薄れるので、それを示す工夫が必要である。
人の集まりと定着	<ul style="list-style-type: none"> ▶目指す姿に「広島県の魅力にひかれ」とあるが、働く場の魅力が第一であり、その他の環境がそれを後押しするものとする。産業分野や「働き方改革」にもつながる話であるが、取組の方向に、広島で働くことの魅力の部分を記載すべきではないか。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ▶今後は、海外で活躍する人材の育成に加え、地域に根差し、支える人材の供給が求められる。県立大学のMBAの設置もあるが、大学間連携による、地域の産業を支える人材の育成に取り組んではどうか。 ▶学力も重要だが、スポーツ県を取り戻すため、他県でも盛んに取り組んでいるスポーツや、囲碁・将棋などにも力を入れてはどうか。 ▶取組の方向②は、学びの変革アクションプランがベースとなっているが、高校までの取組であり、大学教育も学びの変革アクションプランで育成された人材を受入れができるよう誘導するなど、取組の方向⑥の大学の取組と一体的に考える必要がある。
多様な主体の社会参画	<ul style="list-style-type: none"> ▶生産労働人口の維持という観点に加え、定年退職した方の知識、経験を生かした人材の育成を図ることも考えられる。

領域	委員意見
魅力ある地域環境	<ul style="list-style-type: none"> ▶ひろしまブランド，瀬戸内ブランド，観光にもブランドがあり，ブランドが乱立して分かりにくいので，整理が必要だと思う。 ▶東京から広島に帰ってくる人がブランドにひかれて帰ってくることと，広島のライフスタイルとして発信されるものに共感して帰ってくることは異なるので，分けて整理した方が良い。 ▶県が広島市河岸緑地を広島市に対抗して取り組む必要はなく，広島市の取組を県がPRしても良い。
瀬戸内ブランド	<ul style="list-style-type: none"> ▶瀬戸内ブランドは地域づくりでもあり，観光でもあり，海の魅力，山の魅力といった魅力ある地域環境の一つでもある。領域の位置付けについて検討が必要ではないか。 ▶前回までは中山間と瀬戸内で地域別に分かれていたが，瀬戸内にブランドを付けることで，良くもなったが，分かりにくくなった部分があるのではないか。 ▶豊かな地域づくりは，広島が田舎暮らしも都市型の暮らしもできる生活の多様性を強みと捉えて，伝えることができる分野。それぞれのブランドをどの領域で強く発信するかだと思う。 ▶4つの分野の好循環を一望できるような，理解しやすい表現が，各論の前にあると良い。 ▶瀬戸内に，より多くの人に訪れてもらうための付加価値を高めるという視点が重要。瀬戸内の素材をそのまま使うのではなく，“意味付け”や“価値化”していくことが必要である。また，価値化していく時にネックとなる要素をいかに排除するかなど，視野を広げて全体をプロデュースしてほしい。 ▶外国人延宿泊者数を広島県のみでできないか。広島県は昼間の観光客に比べて宿泊者数が少ない状況にあり，滞在日数を延ばすような取組をもっと打ち出してよい。
中山間地域	<ul style="list-style-type: none"> ▶夢を語ろうとしている中山間地域の領域に，生活の最低保証を表すような指標（直接支払制度）が出てくることに違和感がある。
平和貢献	<ul style="list-style-type: none"> ▶県は，平和構築に関する人材育成に重点を置くなど，広島市との役割分担が分かりやすくなる記述にしたほうがよい。